

大正十年九月

情報彙纂 第八

朝鮮ニ關スル海外刊行物記事摘要

朝鮮情報委員會



朝鮮ニ關スル海外刊行物記事摘要（情報彙纂第八）

第一 朝鮮評論（Korea Review）五月號

本誌は排日鮮人の宣傳機關たる在米國費府朝鮮情報局にて發行する英文雜誌であつて同情報局長たる米國歸化鮮人「フイリツプ・ゼインソン」（原名徐載弼）が主筆をしてゐるのである

（一） 新日英同盟約款の提案

一九二〇年七月十四日、國際聯盟は、日英同盟條約を更新する場合には、聯盟約款と抵觸せざる形式を取るべき旨の日英兩國政府より受けた通牒を公表した。該條約は、本年七月を以て期限の満了となる。併し未だ之を更新するの通告——總て此の種の條約に就き聯盟約款に於て必要とする通告はない。

今、日本が挿入せんと希望する同盟條件を、茲に掲げて觀察するは、興味のある事である。簡単に述べれば左の如きものである。

- 一 英國は、東部西伯利に於て、日本以外の列強の權力設定に反對する旨を、明文にて約する事
- 二 英國は、他の強國の、東部西伯利に於ける天然資源の獲得に反對して、同地方に於ける日本の優越的地位を援護する事

三 英國は、日本が戦争の結果獲たる報酬を攻撃するものに反對して、日本を援助する事を約する事

四 英國は、歐露政府より「バイカル」湖以東の西伯利を分離せしむることを援助する事

五 英國は、滿洲、「ウラジオストク」「オコーツク」海又は其の以北の地方に於ける新勢力の樹立に反對して、日本に外交上の援助を與ふる事

日本には、二様の目的あることは明白である

(一) 米國財界が近時獲得したるが如き特權讓與を排除して、前記地方に於ける天然資源開發の商業的(恐らくは政治的)獨占權を獲得せんとする事

(二) 殊に、日本の極東侵略の積極的防護を英國に委囑する事

日本の貪婪は、今又、明白となつた。それは門戶開放主義が無視せらるゝことである。日本は、其の兇暴を報告しつゝある朝鮮内の米國宣教師の如き注目者を排斥し、英國をして巡警の役目を勤めしめて、富源利用開拓の獨占權を得んとして居る。「ヤップ」島を中心とする太平洋海底電信の管理權を握りて朝鮮に於ける如く通信檢閲權を有するならば、日本は、思ふ儘に事を行ひ、日本が朝鮮又は山東に於て執りたるが如き、若しくは、往時の白耳義が「コンゴ」國に於て取りたるが如き政策を、忌憚なく實行し得るであらう。

日本の横着は、豫期以上である。日本は、將に轉落せんとするものではないか？

(二) 日英同盟論

日英同盟は、英國にありては、同國民の指導者等が、歴史的に喧傳されて居る臨機應變政策の一つであつた。當時該同盟は、政略上良策で有ると思はれた。——それは日本人をして英國の欲望に従順ならしめ得る様であつた。又該同盟は、英本國の近くに戦争が起つた場合に、極東に於ける英國の利益を保護する様にも見た。併し其の結果は、今や英國が想像したものとは異なつて居る事が證明せられる。併しながら誰でも日本人を知つて居る者は、少なくとも此の出來事の一部は正確に豫言し得る事であつたのである。

茲に吾人をして(一)全英帝國(二)日本(三)諸外國との利害に對する其の影響如何を見せしむるならば左の如きもので有る。

(一) 歐洲開戦當時の印度に就きて言ふならば、英帝國に對する半島大體の忠誠は、全心全力を籠めた自發的なものであつて、印度より危害が起ると云ふ豫想は、皆根據なきもので有つた事が判明した。尙英國の主權維持に、他國の參加する必要なきことは明白となつた。「アフガニスタン」すら「トルコ」の神聖戦争の要求を拒絶した。日本軍が極東に干涉した一つの場合は、英帝國の利益を保護するよりも、寧ろ危険に陥らしむる残酷極まる行動を自由に爲さしめ、實に耻づべき虐殺の結果を來たした。されば日英同盟も、其れ迄の處では無駄であつた。又極東に於ける、獨逸に關する限りでは、日本も復讐と國家膨脹

の爲にする事丈は、頼みにもなつたであらう。併し一方に於ては、日英同盟は、今や英國が對外事務を取扱ふ上に容易ならぬ障碍である。日本移民に就て英國の二大植民地の取つた態度は、友國の屬領が同盟國に對して爲す筈とは思はれないものである。日本は、何時でも、同盟を理由として、「スカンヂナビヤ」人又は他の國民と同様に、是等屬領の一方、又は兩方へ入國せんとことを要求し得るのである。併し是等の植民地は、何れも、斯くの如きことには、假令、本國政府が強壓せんとしても、それに服従しないであらう。加奈陀は、印度人さへ入國を禁じてあると云ふ外交的防禦策を持つて居る。が濠洲は只單ににべなき拒絶を爲し得るのみである。英國政府は過去に於ても、又現在に於ても、殆んど何等相應の利益もなくして、重大なる困難を感じつゝあるのである。

(二) 日本に對する影響は、結局空疎で有つた。日本が支那及露國に對する戰捷は、其の頭腦に深き印象を與へて居る。又一等強國の一つと全等の親密なる同盟を爲した事は、半醉者に「シヤンペン」を與ふる如きもので有つた。泰西文明に對する開國の強制に依り手荒く打撃された、日本民族優越の舊主義は、日英同盟の爲に、一層極端に復活して來た。日本の治外法權の時代は、屈辱時代ではあつたが、世界の福利の爲には、其の撤廢は、餘りに早過ぎた。此の領土内在留外國人に對する裁判權の制限が撤去せらるゝや、日本の主我的理想主義は回復した。日英同盟は日本自我中心主義を極度に高めた。日本は、國際聯盟に入りては、其の考案する目的の爲には如何なる手段をも取り得ることゝ感じて居た。其の結

果の一部は、左の如きものである。

(イ) 朝鮮、滿洲、西伯利、山東其の他に於ける無恥なる兇暴

(ロ) 支那に對し脅喝と暴力とを以て、實現を圖りたる二十一箇條の無禮たる要求

(ハ) 支那は「ベルサイユ」會議に於て取扱ふ事務を日本の委員を通じて爲せとの倨傲なる要求

(ニ) 東亞細亞及太平洋西部の支配權を得んとする、明確なる要求

(ホ) 其の國民間に、對米惡感を起さしめんとする、教育上の宣傳

(ヘ) 日本と、其の文化とは、世界を支配すべきものとの觀念の助長

(ト) 其の六千萬の人民に熱烈なる軍國的精神の普及

日英同盟の爲、英國は、日本の是等の誇大なる計圖及企畫に對する抗議すら、殆んど抑止されて居る。

英國は僅かに勸告する事さへ敢へて爲し得ないのである。尙又、英國は、土耳其の「アルメニヤ」虐殺

に束縛されて居る獨逸の如く、傲然たる日本の國家的自尊の計畫及政策に對し抗議せざる事に就ては、

辨解するの餘地はなからう。

(三) 他國の受けたる影響の一部分は、次に述ぶる中に包含されて居る。先づ第一は、世界大戰の結果、

殆ど西洋にのみ限られた事件を決定する地位に、東洋の國を引き入れた、おかしな事である。先進國に

影響する世界的問題を處斷する四頭(又は五頭)會議の一員に、日本の如き原始的な野蠻な者を加へた

事は奇怪である。日本は東洋に關する事の外には、殆ど無關心であつた。又國際聯盟は、支那に對する新らしき掠奪行爲の爲、一時的のものになつた。朝鮮、支那、西伯利の侵略、太平洋諸島の委任統治等は、若し日英同盟がなかつたらば、不可能のものであつたらう。孤立の日本で有れば、日本は斯かる事は敢えてしなかつたらう。日英同盟の爲に勢力を得た日本の行動は、驚くべき侵略と、倨傲なる要求とで有つて、日本は遂に、一九一四年（大正三年）の獨逸が執つた態度以上に、恐嚇的な態度を執つたのである。米國は不安を感じ、濠洲は凶事を豫覺し、「カナダ」は露骨に反抗し、支那は恐怖し、佛、蘭は東洋に於て、防禦的施設を爲して居る。

全局の眞の根抵は、日本が、不自然なる同盟より得たる勢威と安全との爲に自覺し、且決心するに至りたる馬來諸島統一主義に在るので有る。

(三) 親日主腦者ヲ殺害ス

閔元植は、日本政府の同化政策を謳歌した誤まれたる朝鮮人であつた。彼には、日本に買收せられたる僅かの朝鮮人叛逆者の外は、其の部下たるものは無かつた。彼は朝鮮内在住の日本人と少數の親日朝鮮人に煽動されて、朝鮮人に衆議院議員の選舉權及其の議員たる特權附與の申請を日本の議會に提出せん爲に數ヶ月前日本へ行つた。

其れは各所に於ける朝鮮人間の獨立運動の趨勢に反對して朝鮮を日本帝國の完全なる領土とする計畫の一部分であつた。彼は、日本官憲から非常に款待され、又其の提議に漠たる獎勵を與へられた。兎に角彼の使命は、朝鮮人から深き忿恚を買ひ、又祖國の叛逆者として烙印を押された。此の憤恚は、只に朝鮮内の人民のみでなく、日本在留の朝鮮人學生の全部迄が深く感して居つた。一朝鮮人學生で、梁權煥と云ふ激し易き義烈な青年は、去る二月某日閔の滞在せる、東京「ステーションホテル」に於て彼を殺害した。

梁は、長崎にて官憲に補らわれ、今は日本の獄に投せられて居る。梁は東京の明治大學の學生で日本婦人と結婚したものの事である。豫審の事實調べの際「共犯者もなく、又以前誰にも相談した者はない」と陳述した。「彼の如き叛逆者を、私が自分勝手に成敗し、又懲らした事は、勿論不正ではあるが、併しながら若し私が斯かる即決の所置に出でなかつたならば、閔は朝鮮を、永久に日本の屬領となす彼の不逞なる目的を完成し得た事と思つた」と述べた。梁は犯罪の責を負ふことを全く喜んで居たが、其れは自由の爲に一人の叛逆者を朝鮮から除去した事を満足に感じて居たからである。彼は、警察官憲が總べての朝鮮獨立黨員を根絶せんとするの熱心を嘲笑した。彼は「僅かばかりの者を此所や彼所で殺した所で、其處には千七百萬以上の黨員があるから駄目である。亦それらの總べての心には自由の精神が深く刻まれて居るから、獨立運動は止まぬであろう」と言つた。此の血の迸ばしりを止めんとするには、日本が朝鮮を解放する唯一の方法があるのみだ。

(四) 止まれ、見よ、聽け

世界は人の性善を、信するが故にその覺ること甚だ遅々たり。世界は長期に亘りて巧みに奸惡に備へ、人心を惑亂せしめんとする群集運動の真相を見破る能はさることあるへし。世界は久しく「チユートン」人が一九一四年——一八年の災厄を脅威せる叫びを割引せり。世界は呪咀主「ウイルヘルム」及その帷幕の臣の高言及「ベルンハールヂ」及「ニイツチエ」の公然たる脅喝を、單なる誇大妄言として寛過せり。世界は今ヤ又極東のチユートン土耳其族たる日本人に於てその謬見を繰返しつゝあり。

「フォラム」誌四月號記事「吾人は日本との戦ひを避け得べきか」に於て「ジー・エム・ウォルカー」氏は日本政治家、軍閥巨頭、政黨首領及操觚者の言を集めて、その「ウイルヘルム」即位より一九一八年に至る獨逸の輿論に等しきを証せり。是等日本人の宣言は、その國家自尊に於て、その自決に於て、その日本文化の評價に於て「チユートン」人の傲語と少しも異なる所なきなり。而して獨逸の豫言が戰前「ポーランド」及獨逸植民地土人の待遇及戰時中白耳義及佛國に對する態度に於て具体化する如く、しかく日本の野望が、滿州、朝鮮、山東及蒙古に於ける行爲及その太平洋諸島問題及米國に於ける土地問題に關し、米國を無視せる事實によりてその發露を見るなり。

吾人は今日日本が我が移民法及土地所有法を左右せんとする特權を我に要求し居れるを忘るへからず。他國民及その權利を無視するに於て殘忍比類なき「征服するか破壊するか」の決意をとるに於て、日本は獨

甚○た○似○た○り○。日○本○は○そ○の○國○内○に○於○て○、獨○乙○國○内○に○於○け○る○國○家○百○年○の○政○策○を○繰○返○し○つ○つ○あ○り○。即○ち○そ○の○國○民○を○
し○て○國○家○自○尊○的○に○教○育○し○、そ○の○國○是○た○る○太○平○洋○及○亞○細○亞○大○陸○併○吞○の○實○現○を○阻○む○も○の○を○憎○ま○し○む○

斯○の○如○き○は○日○本○の○輿○論○の○表○面○に○於○て○明○か○な○り○。雷○に○表○面○に○於○て○の○み○な○ら○す○、そ○の○企○圖○の○核○心○ま○て○明○白○な○り○。

世界は覺らさるか、世界は止まり、見、聽かさるか、ジャップ(日本人)と、はん(獨逸人)との間の言動の
相似は顯著の事實なり。英國及米國は、「チユートン」土耳其族をして再び「アルマゲットン」(聖書にある地
名にして善惡最後の決勝地を意味す)を惹起せしむべくしかく不注意なりや。國○家○自○尊○、國○民○的○貪○婪○及○他○種
輕○蔑○等○に○起○因○す○る○禍○亂○へ○の○盲○進○を○止○め○ん○と○せ○ば○、單○に○嚴○然○且○確○固○た○る○著○明○の○警○語○即○ち○我○が○戰○時○金○言○の○一○あ○る
のみ曰く「米○國○よ○、目○醒○よ○」

第二 布 哇 新聞

朝鮮獨立運動は益々盛んなりと東洋旅行より歸り來れる

李承晩は揚言す

「ホノルル」新聞記載

朝○鮮○の○自○由○獨○立○及○び○日○本○の○主○權○よ○り○脱○せ○ん○と○す○る○希○望○は○、從○前○に○比○し○益○々○有○望○な○り○と○昨○日○「
歸り來りし韓國共和國大統領李承晩博士は語れり。

李博士は支那、滿洲「ウラジオストック」及び其他鮮人の在留する極東の各地を巡視し來たりしものにて、博士は自ら語らざるも東洋六ヶ月間滯在中朝鮮内にも全く入り込み居りしとの由。

李博士の使命は、單に舊韓國の獨立を計る爲鮮人全部を團結せしめて協會を維持し、而て之を指導するにありたるのみならず、又朝鮮事情に關する虚偽の報告を爲す博士の稱する所謂「巧妙なる宣傳」に關して取調ぶるにありき。博士の曰く此の宣傳の唯一の目的は、目下朝鮮内に於て一般起りつゝある事及び起り居らざる事に關して、米人及び「アングロサクソン」人種を迷はしめ、日本の羈絆より脱せんとする鮮人決死の努力に對する趣味を防止し、朝鮮が最後の訴へを爲す場合何等注意を拂はしめざるにありと。

博士は又曰く、例令日本は朝鮮内に於て大改革を施し鮮人に對しては大なる自由と權利を與へ、武斷政治に代ふるに文化政治を以てせりと至る所宣傳しつゝありと雖東洋滯在中日本は實際朝鮮内に七個師團を駐劄せしめ居れり。尙ほ軍隊は常に浦鹽斯德及び滿洲徃復に朝鮮内を通過しつゝありと。

李博士は日本宣傳者の言明せざる一事に關して語れり。曰はく日本に於ては目下日本統治に對して反抗する者を出だしつゝあり。社會主義分子は勢力を加へ重要な地盤を占め、其の言論に於ても日々大膽となりつゝあるを以て日本政府は内部の危機に接しつゝあるなり。日本に於ける自國政府に反對する此の社會主義的傾向は朝鮮全道を通して日本統治に對し、反對の意志を表示するものと同一致子にして共に並行して動きつゝあり。

尙英米の注意を惹起せんと欲する一事は、日本は極東に對して「モンロー」主義を採用せんとするの意思あり、此の方針は米國の遭遇すべき政治上最も危険極まる要素なり。此の「モンロー」主義は約一世紀間、米國の泰西に於て維持し來たりしが如く、極東に於ける諸國に其の權勢を維持せしむるにありと稱して、日本が宣傳しつゝある事柄にして此の宣傳に對する日本の犠牲は、人種平等の要求を撤回するに至れり。即ち日本は加州、布哇及び其の他米國諸州に於ける日本人に對し、同一の投票權を授くべしと強要せざる事是れなり。此の亞細亞的「モンロー」主義が承認されたる場合は、東洋諸國の國家的傾向に變化を來たし、其の結果日本は一個の國家眞の國家、即ち極東を制御する國家として聲明し（此の意味は總て他國を奴隸視する事之れなり）他の國家は、承認さるべき國家となるに至るべし。而て自然新たに論争起り茲に再び各自相反して亂るるに至るべし。

英國は再び日本と同盟を結ばざるべし。日本の目的は同盟を締結し米國と戦端を開く場合は英國を中立たらしむるにあり。

重なる「ヒリツピン」人の日本に對する態度は、全く變化を來たせり。曾て「ヒリツピン」人は日本と提携するに於ては日本は東洋に於て陸海軍の防備あるを以て充分保護さるべきもと信じ居りし事ありと、博士は尙續けて曰く。予は數週前朝鮮視察より歸り來りし「マニラ」の「ヒリツピン」人に面會せしが彼は朝鮮の情況を調査し、日本が鮮人に加へつゝある暴虐の處置を發見せり。彼は「マニラ」に歸り英語にて長文の

記事を綴り之を又「ヒリツピン」語に翻譯せしを以て、「ヒリツピン」人各階級の者は全部之を閲讀せり。而て此の記事中には、日本の對鮮統治の結果及び他國の領土を奪取する點に關して詳論する所ありたり。彼は「ヒリツピン」人に對し若し彼等が日本の巧辨に對して、傾聽するに於ては「ヒリツピン」人は同一の運命に遭遇すべしと警告せり。予は東洋至る所日本に同情を有する「アングロサクソン」人に面會せし事なく、日本は列強中其の親友を失ひ威信を墜落し孤立の立場に陥りつゝあるなり。

朝鮮の國家的運動は益々發展しつゝあり。團結は愈々鞏固となりつゝあるも、現在に於ては何事も着手せず其の行動に關して、彼れ是れ報せられしものと日本側より報告せらるゝものなり。吾人は其の内我が獨立を宣言することあるべし。

李博士は博士の所謂「微行」して世界を巡視し來たり。之れ恰も博士孫逸仙氏が滿洲朝を倒し。支那共和國を建設せし前に於て採りし行動と等しきものなり。博士は如何にして日本の監視する警戒線を脱して東洋に入り込みしか其の點に關しては、何等語らざれども、博士は必然日本の港灣を訪ふことを敢てせざりしなるべし。歸米の際「マニラ」及び布哇を經由し來たりしを見て察せらる。

李博士は曰く、若し布哇が其の耕作地に於て、勞働者を要するとせば鮮人之に當るべく、滿洲「シベリヤ」等朝鮮外に居住する鮮人は、目下二百萬に達す。此等の鮮人は此の目的の爲布哇に持ち來たさるべしと。博士は尙ほ得意の顔色を持し、布哇に於ける鮮人の成功を誇り、且彼等が米國化せんと欲する熱烈なる希望

を有することを述べ、而て曰く、布哇に於ては吾人は鮮人の兒童を米國風に教育することを繼續すべし。然らば其の結果彼等は尙進んで朝鮮内に於ける鮮人を米國化する米國主義宣教師たるに至るべし。之れ予の大希望なりと。

第三 米國雜誌

民族自決の語に謬られたる朝鮮問題

本論文は倫敦タイムスの通信員として永く支那に在り世界に於て一流の極東通として知られて居るブランド氏が朝鮮を視察して其意見を紐育スクリブナー誌上に發表したるものであるが興味ある見解なるを以て特に掲ぐることに取計つた

國際聯盟により提唱された民族自決主義なる新福音の發生地は米國で、従つて此主義を根據とせる朝鮮の獨立運動の發生も進展も共に米國と緊密の關係にあると見られてゐるやうであるが。これは一面極めて變な事でもあるが又、重要な事實でもある。然るに世界の事情に精通する米國の政論家「エドワード・ビー・ベル」(Edward P. Bell)は一九二〇年十二月九日の「タイムス」紙上に一論文を掲げ、米國は從來決して小國の權利を尊重せる如き政策をとつてゐぬことを證明してゐるのは非常な皮肉と云はねはならぬ。彼はいふ、米國の全歴史は帝國主義者、膨脹主義者、併合主義者、小國が軍備上大國に密接なる關係ある時は小國は隣國の

安全の爲に其自由を犠牲とせざるべからざるの主義を奉持する者の國家であることを示してゐる。言論に於ても行爲に於ても、米國は小國の獨立が其隣接せる大國の安寧靜謐といふ一層高い權利に抵觸するときは、小國は其の獨立の權利を有せずとしてゐる。玖馬「ポルトリコ」「ハイチ」「サンドミンゴ」「カリビアン」海「パナマ」運河沿岸地、太平洋、これ悉くこの政策を物語るものである。即ち小數者の自由權は多數者の生存權よりは大切ではないと云ふのである。故に「リンコーン」も聯邦に宣言して、米大陸の平和と安寧とを害する如き州の自決權はこれあらずといふたではないかと。

然り、自決主義の如きは天賦人權説と同じく、其適用は時と處とによるべく、而して之が貫徹は結局強力によらねばならぬものである。かの米國民が大戦を以て四海同胞主義の實現なりと考へ、約束の地が與へらるゝものと想ふたこと、米國政府が朝鮮の獨立希望に對し採れる態度とを比較すれば、それは恰度理論づくめの「ラテン」人と、賢しげな東洋人とが「アングロサクソン」を偽善者呼ばはりすると同一撤である。「ラテン」人や東洋人は兎角主義と實際との間に横はる深淵を見逃しがちのものである。

朝鮮の獨立運動の精神を鼓吹せるものは、一は米國宣教師の感化と教訓であり、二は「ウイルソン」の民族自決主義にあるは疑なき事實である。かの「ラモント」が云ふ如く、朝鮮に於ける宣教師の働きの政治に及ぼせる影響は支那に於けるよりも大い。彼等知識階級は全力を盡して朝鮮を一個の民族にまで進めようと努カしてゐる。又米國著名の政論家「チャールス・エツチ・シエリル」(Charles H. Sherrill)は最近朝鮮の實狀を

視察研究した結果を「スクリブナー」誌に寄せ、日本が朝鮮を保護領として以來及びカナダ宣教師の政治運動を爲す者の多き事實を説き之を悲んでゐる。彼はいふ、嘗て日露戦役に當りて、米國民は日本に同情し「ルーズヴェルト」大統領は日本の朝鮮併合を是認してゐた。そして「カイゼル」のものは「カイゼル」に還へすべく、宗教傳道は之を統治する政權者の認むる範圍内に於て爲すべきである。然るに朝鮮には長年月の間居住せる宣教師があつて之を自國の如く考へ、朝鮮に起つた政變をも忘れた舉動を敢てし、或は朝鮮人の進歩に何等資する所なきものすら多くある。かの數百の宣教師と三十萬の朝鮮人基督信者ありと稱するにも拘らず、信徒は其改宗により何等進歩の跡の見るべきものなく、日本の佛徒乃至は神道信徒にも及ばざる遠き有様である。

朝鮮獨立煽動の責任の歸着は暫く措いて、今は其の影響を見る事としやう。「エフ・エー・マッケンヂイ」

(F. A. McKenzie)は英國の通信員として常に朝鮮の同情者であるが、其近業「朝鮮の自由獲得戦」(Korea's Fight for Freedom)は日本の軍國主義的朝鮮統治を糾弾し、最後に鮮人の救済を基督教界及び英、米、「カナダ」の政治家に訴へてゐる。(譯者曰、彼、昨年十月英國に於て國會議員其他を糾合しLeague of the Friends of Korea) 彼の描ける總督府の

獨立運動に對する鎮壓策は一讀人をして膽を冷かならしむるものがある。併し東京政府も之を認め、勅語の煥發となり朝鮮總督政治の改善を約し、憲兵制度を廢し、之に代ふるに警察制度となし、自由政治は布かれ鮮人は日本人と同様の市民權、自由及び特權を享有するに至つたのである。軍國的總督政治は廢せられて

伊藤公の建てた政策、即ち教育と慰撫となる同化政策に歸る事となつた。併しこの政策の變更については不信を抱く人が多い。「マツケンヂイ」の如きも日本の自由主義が徹底的に軍閥を倒壊せざる限り——そして其徴候は更にない——、朝鮮の虐政は絶えず、支那の侵略は止まない。かくして「其結果は大争闘を勃發し終末については何人も豫測するを得まい」としてゐる。

若し以上の見解にして正當なりとせんか、東洋に平和の來るは何の日か解らない。けれども是等日本の統治に疑念を抱く人々は、鮮人の虐政に對する人道上の要求と、朝鮮の政治的獨立の要求との間には確然たる差異あるを忘れてゐる。又朝鮮人が其獨立運動を開始して以來、彼等の受けた苦痛は其運動の主動者が「ウイルソン」大統領其他の善い意味に於ける政治的空想家の意見による空望に基するものであることこの事實を忘れ勝である。併し「マツケンヂイ」はかゝる迂濶者では勿論ない。彼はいふ、若し朝鮮騷擾について局外の責任者がありとすれば、それこそ「ウイルソン」大統領である。然るにも拘らず米國及び巴里に於て鮮人の代表者は如何なる取扱を受けたか、之を見ては何人も鮮人に同情を禁じ得ざるべく、又國際聯盟の未だ確立せざるに先ち民族自決運動を鼓吹する如き其無責任を責めざるものはあるまい。

獨立宣言書に署名せる三十三名の愛國者は「ウイルソン」の宣言書こそは朝鮮を自由ならしむるものであると信じたに相違ない。彼等は宣言していふ新時代は我等の目前に醒め、力の舊世界は去つて正義と眞理の新世界は來れりと。彼等は日本統治の下に苦しみつゝありとの一事以外何事をも知らない。若し彼等にして

一度國際場裡に於ける朝鮮の歴史を研究し米國をも包含する列強が曩に其獨立を承認しながら、後に日本との併合を是認せるの事實に考へ及ばず、彼等は必ずや斯る運動をなすに躊躇したに相違ないのである。彼等は先づ「ウイルソン」の主義がどれだけ確立せらるべきかを確め、又數年前「ルーズヴェルト」大統領が朝鮮獨立の干渉を排して、何等利害關係なき國が獨立するの力なき朝鮮人の爲めに援助を與ふべしと考ふる如きは抑も問題外なりと論じたことに想起すべき筈であつたのである。

故に若し鮮人の領袖にして實際的政治家に謀る所があつたならば、日本は其經濟的及び軍事的實狀より朝鮮の領有が其自己保存上已むを得ぬものなるを彼等は確に悟つたに相違ない。過去五十年間、朝鮮は「チアール」の云へるが如く日本政策の刺激者である、東北亞細亞の紛乱の中心であつた。其無力は極東を化して鬪鶏場たらしめ、常に隣接せる強國の衝突の種子であり、其等戦争には二千萬の鮮人はいつも傍觀者たり、たゞ内紛と反逆と術策と爭奪に日も維れ足つずといふ有様であつた。若し日本が支那を破らず、露國を驅逐せなかつたならば、半島は支那の虐政に苦み、露國の領有に歸してゐた事は此の疑もないのみならず、鮮人中多數の者が一九〇五年以後併合に至るまで、日本より報酬を得て之に加擔せるの事實及び憲兵にすら鮮人の加はり居るの事實は、いかに愛國鮮人と云へども否認は出來ない。

余は昨年二月京城に於て水野新政務總監と日本の朝鮮政策につき談するの機會を得た。彼は過去に於て軍閥者流がなせる政策を悲み自由主義と緩和政策、殊に帝國議會は適當に其代表者を送るを得るに至らば、必

を好果を齎すに相違なきを言明し、更に一九一九年獨立運動は決して眞乎の民族運動ではないと斷言した。尙一八九八年支那の宗主權が廢せらるや、獨立俱樂部は騷擾を煽動したが、それも數箇月で保守派の爲めに鎮壓せられたるの事實、及び一八九四年より一九〇四年に至る間、朝鮮は獨立國であつたに相違ないが、自主の不能なるを示し、外國人は其生命財産の安全を保障せらるを得なかつた事を語り、「フレデリック・コールマン」(Frederick Coleman)「エー・チャドソン・ブラウン」(A. Judson Brown)の如き不偏の人は日本統治以來朝鮮農民の生活の進歩を是認せる旨を語り、最後に話題を國際聯盟に轉じ、小國の自決權及び各自其特殊の安寧幸福を追求すべきものなるを語り合ふた水野博士は國際的政治に通曉する卓越せる學者で、伊藤公の施政の承繼者である、彼はいふ日本は國際聯盟の賛助者である。併し實際の政治問題としては、英國が愛蘭共和國を認め得ると同一理由で日本は朝鮮の獨立を認むる譯には行かないと。

後東京に到り日本の政治家外交家と同一問題につき議論するの機會を得た。一外交官の話では、國際聯盟が將來人種の平等を是認し、朝鮮に對する他國の政治的勢力及び侵略を排除することを得るの曉に於ては、朝鮮問題も一の國際聯盟として考慮すべきであらうと。

獨立騷擾と云ふ凶事からも善果は生れ出た。京城及び東京に於て見聞せる所から判斷すると、日本の政府は強制的同化政策は反つて鮮人間に民族的精神を發起せしめ、新統治者を怨嗟するに過ぎぬと云ふ事を知るに至つたやうである。日本は其同化政策を行ふにあたり、圖らずも朝鮮人の隠れたる性質、平氣を裝ふてゐ

るが而も内心の執拗な反抗心、奮起して戦ふだけの勇氣はないのか、それとも戦ふよりもつと高尚なりとし
てゐるのか、兎角いつも殉教者となるやうな性質を朝鮮人は包藏してゐることを知つた。憲政會の有志が朝
鮮を視察して、二千年の歴史を有する朝鮮人の如きに、日本人に對すると同一の精神教育を強要する植民政
策は大なる誤であるといふたが、政府も同じく斯く信ずるに至つたのである。

議會に於ては労働黨の問題となり、米國にては民族自決の福音の信徒によつて、朝鮮問題が囂しく論議せら
るゝ際、施政の方針を變更するの必要あるは政府者の既に知悉せる所である。之と相對し興味あるは、上海
に本部を有する朝鮮共和國假政府の連中は、かの非妥協的な「シンフイーン」黨の如く、今や地方自治の如
きは念頭に置かず、絶對にして完全なる獨立を主張してゐるの一事である。併し「シンフイーン」とは異り
彼等は消極的反抗の方法を採つてゐる。そして其閣員と稱する者は、多くは外國の大學で教育を受けに者で
あるが、彼等は固く「ウイルソン」の民族自決主義を採つて動かさず、「シンフイーン」と同じく近世の進歩せ
る共和國を建設し得べしと自信してゐるのである。支那青年黨と同じく其大多數の國人は無智蒙昧にして到
底代議政体を実施するに適當せず、萬一朝鮮共和國を肇造する如きことありとするも、それは支那と同じく
少數の特權階級が多數國民を統治するの結果に陥るべきことを忘れてゐる。又支那青年黨が共和政治を要求
してゐるに拘らず、民衆の開發に何等盡す所なきが如く、若き朝鮮も政治問題に囚はれて何等實のある民衆
運動をしてゐない。かの米國に於て創立せられた「朝鮮國民協會」(Korean National Association)が滿洲「マン

リア」支那に逃亡せる鮮人間に百萬の有志を有すと稱するの眞ならざるが如く、青年朝鮮の思想感情が鮮人農民間に傳はり居らざるは言ふを俟たない。上海の假政府は鮮人の有志が假政府を唯一眞呼の政府なりとし、自發的に貢献する租税により維持せらるると云ふてゐる。之は孫逸仙一派が常に數百萬の同志を有すと吹聴するに異らない。其意氣や愛すべしと雖、外國人にしてこの政治的熱望を遂げしめるが爲援助を與ふる如きあらば、それは盲人が盲人の手引をなすよりも不都合で、其結果はたゞ鮮人を更に悲慘な境遇に陥れるのみである。

民族自決をどこにでも適用して何等の危険なしと信ずる人は、朝鮮問題をも極く簡単に片付けて了ふ。けれど人性と既往の歴史に或程度の重きを置くものは、朝鮮問題及び其解決については、文明諸國が一旦朝鮮の併合を承認したといふ點から、日本政府の見解について注意を拂ふの要ありといふに相違ない。故に實際問題を感情で決定する如きことないやうに、朝鮮問題が國際聯盟の會議に上げざるゝとき（無論それはたゞ其希望を記録に止むるに過ぎぬのであらふが）異教徒に罵詈されぬやう、朝鮮の眞の友が馬鹿にされぬやうに注意して欲しいものである。之と共に國際聯盟により、或は之によらずして極東の諸問題をば獨逸の再び出て來ぬうちに適當に解決せんことが更に望ましい。けれど其解決に着手するに當り、我等の先づ知らざるべからざるは、歐米諸國が其活動を其の國境内に局限せざる限り、日本をして朝鮮より手を引かしめんとするは抑も無理なことである。英國が印度を領し、波斯を保護國とせんとし、佛蘭西は嘗ては支那領なりし廣大

の地域を得有し、米國が「パナマ」を領有せんとし、「カリッピア」海の諸小國を併合せんとしつゝある限り何の道義的理由あつてか列強は日本に向ひ人道と文明との名の下に朝鮮の統治を捨てよと云ひ得るものぞ。三國干涉により遼東を還付せしめ、茲に露國の平和的侵略の端緒を開いたではないが。歐羅巴の被征服者に對する好意といふ、この苦しい經驗は到底日本の忘る能はざる所のものである。

朝鮮に於ける日本軍閥の虐政と、政治的理想論の無責任な企圖は暫く措いて茲に論せぬとするも、日本政府が半島を領有するについては、英國が埃及の支配權を保留すると同一理由を以て答ふことが出来る。米國の「シエリル」氏は日本の朝鮮に於ける進歩的施政を縷述したる後、是れ英國の埃及に於ける施政と比較するも何の劣る所がないと斷言してゐる。

余の視察は素より皮相の觀察には過ぎなかつたが、朝鮮農民の一般状態殊に生活状態の舊政府時代に比し著大の進歩ありしは一目して瞭であつた。若しこの事實にして是認せらるゝならば、事實問題は第二段に進む。即ち斯の如き物質上及教育の進歩は外國統治の下にあつても、矢張り繼續し行き、終に朝鮮人が自治を營むに適當な時期又は日本臣民と絶對に同等な社會上經濟上の取扱を要求することが望ましいことではあるまいか。民族自決主義は假令之を即時實行するとしても、それはたゞ朝鮮の昔の渾沌状態に逆轉せしむるに過ぎぬのではあるまいか。かの支那が未だ共和政を布くだけの發達を遂げざるに敢て之を適用せんとせる愚かさは遠からざる殷鑑ではなからうか。故に眞乎の朝鮮問題は日本の統治に代つて朝鮮及び其隣國の平和

の進歩ごとに貢献するやうなものを案出するといふことになるのである。

(日本讀書協會の譯出に依る)

● 畢 ●